

平成31年度
放射線測定及び放射線防護研修に係る
一般競争入札説明書

入 札 説 明 書

入 札 心 得

入 札 書 様 式

委 任 状 様 式

予算決算及び会計令（抜粋）

仕 様 書

入 札 適 合 条 件

契 約 書 （ 案 ）

平成31年4月

原子力規制委員会

原子力安全人材育成センター 総合研修課

入札説明書

原子力規制委員会
原子力安全人材育成センター総合研修課

原子力規制委員会原子力規制庁の役務の調達に係る入札公告（平成31年4月23日付け公告）に基づく入札については、関係法令、原子力規制委員会原子力規制庁入札心得に定めるもののほか下記に定めるところによる。

記

1. 競争入札に付する事項

(1) 件名

平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修

(2) 契約期間

契約締結日から平成32年3月10日まで

(3) 納入場所

仕様書による。

(4) 入札方法

入札金額は、総価で行う。

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税及び地方消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積った契約金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

2. 競争参加資格

(1) 予算決算及び会計令（以下「予決令」という。）第70条の規定に該当しない者であること。

なお、未成年者、被保佐人又は被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ている者は、同条中、特別の理由がある場合に該当する。

(2) 予決令第71条の規定に該当しない者であること。

(3) 原子力規制委員会から指名停止措置が講じられている期間中の者ではないこと。

(4) 平成31・32・33年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」において「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。

(5) 入札説明書において示す暴力団排除に関する誓約事項に誓約できる者であること。

3. 入札者に求められる義務等

この一般競争に参加を希望する者は、原子力規制委員会原子力安全人材育成センターの交付する仕様書に基づき適合証明書を作成し、適合証明書の受領期限内に提出しなければならない。また、支出負担行為担当官等から当該書類に関して説明を求められた場合は、それに応じなければならない。

なお、提出された適合証明書は原子力規制委員会原子力安全人材育成センターにおいて審査するものとし、審査の結果、採用できると判断した証明書を提出した者のみ入札に参加できるものとする。

4. 入札説明会の日時及び場所

[日時] 平成31年5月10日(金) 14時00分～

[場所] 原子力規制委員会 原子力規制庁 入札会議室(13階)

※1 参加人数は、原則1社1名とする。

※2 本会場にて、入札説明書の交付は行わない。(持参すること。)

※3 本案件は、入札説明会への参加を必須としない。

5. 適合証明書の受領期限及び提出場所

[期限] 平成31年5月21日(火) 12時00分

[場所] 原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課(20階)

6. 入札及び開札の日時及び場所

[日時] 平成31年6月4日(火) 14時00分～

[場所] 原子力規制委員会 原子力規制庁 入札会議室(13階)

※開札は入札後直ちに行う。

7. 競争参加者は、提出した入札書の変更及び取消しをすることができない。

8. 入札の無効

入札公告に示した競争参加資格のない者による入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする。

9. 落札者の決定方法

支出負担行為担当官が採用できると判断した適合証明書を提出した入札者であって、予決令第79条の規定に基づき作成された予定価格の制限の範囲内で最低価格をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、落札者となるべき者の入札額によってはその者により当該契約の内容に適合した履行がなされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とすることがある。

10. その他の事項は、原子力規制委員会原子力規制庁入札心得の定めにより実施する。
11. 入札保証金及び契約保証金 全額免除
12. 契約書作成の要否 要
13. 契約条項 契約書（案）による。
14. 支払の条件 契約書（案）による。
15. 契約手続において使用する言語及び通貨
日本語及び日本国通貨に限る。
16. 契約担当官等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地
支出負担行為担当官 原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 伊藤 隆行
〒106-8450 東京都港区六本木一丁目9番9号
17. その他
 - (1) 競争参加者は、提出した証明書等について説明を求められた場合は、自己の責任において速やかに書面をもって説明しなければならない。
 - (2) 本件に関する照会先
原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課
青木 容子： yoko_aoki@nsr.go.jp
浅生 久美子： kumiko_aso01@nsr.go.jp
TEL：03-6277-6924
 - (3) 元号が改められたときには、本説明書に記載した日付（元号が改められた日以後のものに限る。）を、新しい元号による日付に読み替えるものとする。

(別 紙)

原子力規制委員会原子力規制庁入札心得

1. 趣旨

原子力規制委員会原子力規制庁の所掌する契約（工事に係るものを除く。）に係る一般競争又は指名競争（以下「競争」という。）を行う場合において、入札者が知り、かつ遵守しなければならない事項は、法令に定めるもののほか、この心得に定めるものとする。

2. 入札説明書等

- (1) 入札者は、入札説明書及びこれに添付される仕様書、契約書案、その他の関係資料を熟読のうえ入札しなければならない。
- (2) 入札者は、前項の書類について疑義があるときは、関係職員に説明を求めることができる。
- (3) 入札者は、入札後、(1)の書類についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

3. 入札保証金及び契約保証金

環境省競争参加資格（全省庁統一資格）を保有する者の入札保証金及び契約保証金は、全額免除する。

4. 入札書の書式等

入札者は、様式1による入札書を提出しなければならない。

5. 入札金額の記載

落札決定に当たっては、入札書に記載された金額に当該金額の8パーセントに相当する額を加算した金額（当該金額に1円未満の端数があるときは、その端数金額を切り捨てた金額とする。）をもって落札価格とするので、入札者は消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約金額の108分の100に相当する金額を入札書に記載すること。

6. 直接入札

直接入札を行う場合は、入札書を封筒に入れ、封緘のうえ入札者の氏名を表記し、公告、公示又は通知書に示した時刻までに入札箱に投入しなければならない。この場合において、入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札に当たっては、入札書とは別に証明書及び添付書類を契約担当官（会計法（昭和22年法律第35号）第29条の3第1項に規定する契約担当官等をいう。以下同じ。）に提出しなければならない。

7. 代理人等（代理人又は復代理人）による入札及び開札の立会い

代理人等により入札を行い又は開札に立ち会う場合は、代理人等は、様式2による委任状を持参しなければならない。

8. 代理人の制限

(1) 入札者又はその代理人等は、当該入札に係る他の入札者の代理人を兼ねることができない。

(2) 入札者は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号、以下「予決令」という。）第71条第1項各号の一に該当すると認められる者を競争に参加することが出来ない期間は入札代理人とすることができない。

9. 条件付の入札

予決令第72条第1項に規定する一般競争に係る資格審査の申請を行った者は、競争に参加する者に必要な資格を有すると認められること又は指名競争の場合にあっては指名されることを条件に入札書を提出することができる。この場合において、当該資格審査申請書の審査が開札日までに終了しないとき又は資格を有すると認められなかったとき若しくは指名されなかったときは、当該入札書は落札の対象としない。

10. 入札の無効

次の各項目の一に該当する入札は、無効とする。

- ① 競争に参加する資格を有しない者による入札
- ② 指名競争入札において、指名通知を受けていない者による入札
- ③ 委任状を持参しない代理人による入札
- ④ 記名押印（外国人又は外国法人にあっては、本人又は代表者の署名をもって代えることができる。）を欠く入札
- ⑤ 金額を訂正した入札
- ⑥ 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
- ⑦ 明らかに連合によると認められる入札
- ⑧ 同一事項の入札について他人の代理人を兼ね又は2者以上の代理をした者の入札
- ⑨ 入札者に求められる義務を満たすことを証明する必要がある入札にあっては、証明書が契約担当官等の審査の結果採用されなかった入札
- ⑩ 入札書の提出期限までに到着しない入札
- ⑪ 暴力団排除に関する誓約事項（別記）について、虚偽が認められた入札
- ⑫ その他入札に関する条件に違反した入札

11. 入札の延期等

入札参加者が相連合し又は不穩の行動をする等の場合であって、入札を公正に執行することができない状態にあると認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず、又は入札の執行を延期し若しくはとりやめることがある。

12. 開札の方法

- (1) 開札は、入札者又は代理人等を立ち合わせて行うものとする。ただし、入札者又は代理人等の立会いがない場合は、入札執行事務に関係のない職員を立ち合わせて行うことができる。
- (2) 入札者又は代理人等は、開札場に入場しようとするときは、入札関係職員の求めに応じ競争参加資格を証明する書類、身分証明書又は委任状を提示しなければならない。
- (3) 入札者又は代理人等は、開札時刻後においては開札場に入場することはできない。
- (4) 入札者又は代理人等は、契約担当官等が特にやむを得ない事情があると認めた場合のほか、開札場を退場することができない。

13. 調査基準価格、低入札価格調査制度

- (1) 工事その他の請負契約（予定価格が1千万円を超えるものに限る。）について予決令第85条に規定する相手方となるべき者の申込みに係る価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないこととなるおそれがあると認められる場合の基準は次の各号に定める契約の種類ごとに当該各号に定める額（以下「調査基準価格」という。）に満たない場合とする。
 - ① 工事の請負契約 その者の申込みに係る価格が契約ごとに10分の7から10分の9までの範囲で契約担当官等の定める割合を予定価格に乗じて得た額
 - ② 前号以外の請負契約 その者の申込みに係る価格が10分の6を予定価格に乗じて得た額
- (2) 調査基準価格に満たない価格をもって入札（以下「低入札」という。）した者は、事後の資料提出及び契約担当官等が指定した日時及び場所で実施するヒアリング等（以下「低入札価格調査」という。）に協力しなければならない。
- (3) 低入札価格調査は、入札理由、入札価格の積算内訳、手持工事の状況、履行体制、国及び地方公共団体等における契約の履行状況等について実施する。

14. 落札者の決定

- (1) 有効な入札を行った者のうち、予定価格の制限内で最低の価格をもって入札した者を落札者とする。
- (2) 低入札となった場合は、一旦落札決定を留保し、低入札価格調査を実施の上、落札者を決定する。
- (3) 前項の規定による調査の結果その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき、又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札をした者のうち最低の価格をもって入札した者を落札者とすることがある。

15. 再度入札

開札をした場合において、各人の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、再度の入札を行う。

なお、直接入札における開札の際に、入札者又はその代理人等が立ち会わなかった場合は、再度入札を辞退したものとみなす。

16. 落札者となるべき者が2者以上ある場合の落札者の決定方法

当該入札の落札者の決定方法によって落札者となるべき者が2者以上あるときは、直ちに当該者にくじを引かせ、落札者を決定するものとする。

なお、入札者又は代理人等が直接くじを引くことができないときは、入札執行事務に関係のない職員がこれに代わってくじを引き、落札者を決定するものとする。

17. 落札決定の取消し

落札決定後であっても、入札に関して連合その他の事由により正当な入札でないことが判明したときは、落札決定を取消することができる。

18. 契約書の提出等

(1) 落札者は、契約担当官等から交付された契約書に記名押印（外国人又は外国人が落札者である場合には、本人又は代表者が署名することをもって代えることができる。）し、契約書を受領した日から10日以内（期終了の日が行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条に規定する日に当たるときはこれを算入しない。）に契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等が必要と認めた場合は、この期間を延長することができる。

(2) 落札者が前項に規定する期間内に契約書を提出しないときは、落札は、その効力を失う。

19. 契約手続において使用する言語及び通貨

契約手続において使用する言語は日本語とし、通貨は日本国通貨に限る。

(別記)

暴力団排除に関する誓約事項

当社（個人である場合は私、団体である場合は当団体）は、下記事項について、入札書（見積書）の提出をもって誓約いたします。

この誓約が虚偽であり、又はこの誓約に反したことにより、当方が不利益を被ることとなっても、異議は一切申し立てません。

また、官側の求めに応じ、当方の役員名簿（有価証券報告書に記載のもの（生年月日を含む。））を提出します。ただし、有価証券報告書を作成していない場合は、役職名、氏名及び生年月日の一覧表）及び登記簿謄本の写しを提出すること並びにこれらの提出書類から確認できる範囲での個人情報警察に提供することについて同意します。

記

1. 次のいずれにも該当しません。また、将来においても該当することはありません。

(1) 契約の相手方として不適当な者

ア 法人等（個人、法人又は団体をいう。）の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）

の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ）又は暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき

イ 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき

ウ 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき

エ 役員等が、暴力団又は暴力団員と社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(2) 契約の相手方として不適当な行為をする者

ア 暴力的な要求行為を行う者

イ 法的な責任を超えた不当な要求行為を行う者

ウ 取引に関して脅迫的な言動をし、又は暴力を用いる行為を行う者

エ 偽計又は威力を用いて会計課長等の業務を妨害する行為を行う者

オ その他前各号に準ずる行為を行う者

2. 暴力団関係業者を再委託又は当該業務に関して締結する全ての契約の相手方としません。

3. 再受任者等（再受任者、共同事業実施協力者及び自己、再受任者又は共同事業実施協力者が当該契約に関して締結する全ての契約の相手方をいう。）が暴力団関係業者であることが判明したときは、当該契約を解除するため必要な措置を講じます。

4. 暴力団員等による不当介入を受けた場合、又は再受任者等が暴力団員等による不当介入を受けたことを知った場合は、警察への通報及び捜査上必要な協力を行うとともに、発注元の契約担当官等へ報告を行います。

(様式1)

入 札 書

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所 在 地

商号又は名称

代表者役職・氏名

印

(復) 代理人役職・氏名

印

注) 代理人又は復代理人が入札書を持参して入札する
場合に、(復) 代理人の記名押印が必要。このと
き、代表印は不要(委任状には必要)。

下記のとおり入札します。

記

- 1 入札件名 : 平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修
- 2 入札金額 : 金額 円也
- 3 契約条件 : 契約書及び仕様書その他一切貴庁の指示のとおりとする。
- 4 誓約事項 : 暴力団排除に関する誓約事項に誓約する。

(様式2-①)

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所 在 地
(委任者) 商号又は名称
代表者役職・氏名 印

代理人所在地
(受任者) 所属(役職名)
代理人氏名 印

当社 を代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

- 1 平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修の入札に関する一切の件
- 2 1の事項にかかる復代理人を選任すること。

(様式2-②)

委 任 状

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

代理人所在地
(委任者) 商号又は名称
所属(役職名)
代理人氏名 印

復代理人所在地
(受任者) 所属(役職名)
復代理人氏名 印

当社 を復代理人と定め下記権限を委任します。

記

(委任事項)

平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修の入札に関する一切の件

(参 考)

予算決算及び会計令（抜粋）

（一般競争に参加させることができない者）

第七十条 契約担当官等は、売買、貸借、請負その他の契約につき会計法第二十九条の三第一項の競争（以下「一般競争」という。）に付するときは、特別の理由がある場合を除くほか、次の各号のいずれかに該当する者を参加させることができない。

- 一 当該契約を締結する能力を有しない者
- 二 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者
- 三 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成三年法律第七十七号）第三十二条第一項各号に掲げる者

（一般競争に参加させないことができる者）

第七十一条 契約担当官等は、一般競争に参加しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、その者について三年以内の期間を定めて一般競争に参加させないことができる。その者を代理人、支配人その他の使用人として使用する者についても、また同様とする。

- 一 契約の履行に当たり故意に工事、製造その他の役務を粗雑に行い、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をしたとき。
- 二 公正な競争の執行を妨げたとき又は公正な価格を害し若しくは不正の利益を得るために連合したとき。
- 三 落札者が契約を結ぶこと又は契約者が契約を履行することを妨げたとき。
- 四 監督又は検査の実施に当たり職員の職務の執行を妨げたとき。
- 五 正当な理由がなくて契約を履行しなかつたとき。
- 六 契約により、契約の後に代価の額を確定する場合において、当該代価の請求を故意に虚偽の事実に基づき過大な額で行つたとき。
- 七 この項（この号を除く。）の規定により一般競争に参加できないこととされている者を契約の締結又は契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用したとき。

- 2 契約担当官等は、前項の規定に該当する者を入札代理人として使用する者を一般競争に参加させないことができる。

仕 様 書

1. 件名 平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修

2. 目的

本業務は、原子力検査、原子力安全審査、危機管理対策、放射線規制等の職務を担う原子力規制委員会の職員に、各職共通の基礎知識として、放射線、放射線測定及び放射線防護の基礎を、実習を交えて修得させることを目的として実施するものである。

3. 対象者

原子力検査、原子力安全審査、危機管理対策、放射線規制等の基本資格を取得しようとする原子力規制委員会職員

4. 受講の履修条件

原子と原子核の構造、同位体、元素周期表といった高校程度の物理知識を有していること。

5. 受講者数

(各期)最大15名

※受講免除の判断により、受講者によっては、講義の一部又は実習のみ受講することがある。

6. 研修日程

研修は年3回実施することとし、日程等は以下のとおり。

| | 実施日(連続した5日間) | 時間 |
|-----|-----------------------|---------------------------------|
| 第1期 | 平成31年7月29日(月)～8月2日(金) | 9:00～17:00 (昼休1h+休憩時間含む) |
| 第2期 | 平成31年11月11日(月)～15日(金) | |
| 第3期 | 平成32年2月3日(月)～7日(金) | |

※諸般の事情により日程変更等が発生する場合には、協議の上で決定する。

7. 研修実施場所

原子力安全研修所

住所 茨城県ひたちなか市新光町552番47

電話 029-264-2605

8. 講師

講師は、下記「9. 実施内容」に相当する内容の講師経験があり、本業務を行うに十分な力量(専門知識、実務経験、教育技量)を有する者であること。(個人情報保護の観点から開示できる範囲で講師の経歴等を示すこと。)

9. 実施内容

9.1 実施計画書の作成

本業務の実施に係る具体的な作業工程等を記した「実施計画書」を作成すること。

9.2 カリキュラムの作成

別表に示す内容を、研修時間内にバランス良く組み込んだ「カリキュラム(時間割)」を作成すること。(学習効率に鑑み、項目の順番や内容の区切り方等を変更又は追加する提案も可)

また、実習を充実したものにするため、目安としては、5日間の研修のうち、2日間程度の時間を実習とすること。

カリキュラムの作成に当たっては、職員の資質向上に有効となるよう十分な検討を行うこととし、発注者の承認を得ること。

9.3 研修教材の作成

以下の要領で、カリキュラムに対応した研修教材を作成すること。

- ① 原則としてスライド形式の PowerPoint で作成すること。
- ② 研修教材ごとに「目次」及び「概要(学習のねらい)」を付すこと。
- ③ 内容のレベルについては「4. 受講の履修条件」を参考にすること。
- ④ 図、表、グラフ、写真等をできるだけ活用し、受講者が理解しやすいよう工夫すること。
- ⑤ 受講者の理解促進を図るため、必要に応じ、語句の説明、定数、単位や公式の一覧等の参考資料を盛り込むこと。
- ⑥ 作成した研修教材は、発注者のレビューを受けること。

9.4 理解度テストの作成

以下の要領で、理解度テストの問題及び解答を作成すること。

- ① 筆記試験とする。
- ② 問題数は、設定した時間内で回答できるよう、適切な質と量になるよう調整すること。
- ③ 問題形式は、「○×による正誤問題」、「多肢選択問題」、「多数の選択肢を与えた穴埋め問題」等の客観式とすること。
- ④ 研修内容を逸脱した問題を含まないよう留意すること。
- ⑤ 配点の目安は、学習到達目標を踏まえ、100点満点で70点以上が合格となるようなレベルに設定すること。(理解度テストの受験は、教材等資料閲覧不可)
- ⑥ 各設問に点数の配分を記載すること。
- ⑦ 受験上の注意事項がある場合には、分かるように問題用紙に予め記載しておくこと。
- ⑧ 理解度テスト問題は、不合格者の再テスト用に2種類作成すること。
- ⑨ 作成した理解度テストの問題及び解答は、発注者のレビューを受けること。

※本テストは、選別のためのテストではなく、研修のポイントを受講者が確認できるとともに、受講者の理解度を確認するためのものである。

9.5 研修の実施

作成したカリキュラムのとおり研修を行うこと。なお、講義は平易な言葉で行い、受講生を飽きさせない工夫を凝らすことが望ましい。また、実習においては、なるべく受講者全員が機器を扱い、測定等を行うことができるよう配慮すること。

9.6 理解度テストの実施

研修終了後は「理解度テスト」を実施し、解答及び解説、質疑応答を行うこと。なお、理解度テストの受験は、教材等資料閲覧不可とする。

実施した理解度テストの問題及び答案を回収し、採点を行った上で受講者の問題ごとの解答状況及び得点が一覧できる「整理表」を速やかに作成し、採点済みの答案とともに発注者に提出すること。

9.7 受講態度の観察

必要に応じて、発注者が指定する様式により受講態度の観察を行うこと。

9.8 実施報告書の作成

各期ごとに実施報告書を作成し提出すること。

実施報告書には、件名、実施期間、受講者、研修内容等を含めることとし、次回への改善提案事項があれば記載すること。

10. 調達条件

10.1 研修で使用とするすべてのもの(教材、機材等)は、受注者の責任で必要人数分を用意すること。なお、研修所に設置されている機器(PC、プロジェクタ、スクリーン、マイク、スピーカー、ホワイトボード等)については、事前連絡の上で使用できるものとする。

10.2 作業を進める上で、確認及び調整等が必要となる場合は、都度打ち合わせることとする。

11. 実施工程

本事業に係る工程案(第1期分のみ)を以下に示す。下案に大きな変更が生じる場合及び詳細な工程管理が追記される場合には、改訂版を速やかに提出すること。

| 工程 (第1期) | 平成31年 | | | |
|------------------|-------|----|----|----|
| | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 |
| (1) 実施計画書の作成 | ■ | | | |
| (2) カリキュラムの作成 | ■ | | | |
| (3) 研修教材の作成 | | ■ | | |
| (4) 理解度テストの作成 | | ■ | | |
| (5) 研修及び理解度テスト実施 | | | ■ | |
| (6) 終了報告書の作成 | | | ■ | |

12. 契約期間

自：契約締結日

至：平成32年3月10日

13. 実施体制及び実施責任者

(1) 実施体制

受注者は、①実施責任者と②品質管理責任者の氏名及び役職を記載した「実施体制図」を作成すること。ただし、①と②は兼務しない。

(2) 実施責任者

発注者側：原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課長

受注者側：実施体制図に記載された本業務を総括する実施責任者

14. 品質計画書

受注者は、本業務に係る「品質計画書」を提出すること。品質計画書には、少なくとも下記内容を記載すること。

(1) 品質管理体制

① 受注業務に対する品質を確保するための十分な体制が構築されていること。

② 作業実施部署は、品質管理部署と独立していること。

③ 実施責任体制が明確となっていること

(2) 品質管理の具体的な方策

受注業務に対して品質を確保するための、当該業務に対応した具体的な作業に関する方法(チェック時期及びチェック内容)が明確にされていること。

(3) 担当者の技術能力

本業務に従事する者の技術能力が明確にされていること。ただし、個人情報に関するものは記載しなくてもよい。

(4) 不適合管理

不適合発生時には、速やかに発注者に報告するものとし、適切な管理方法が明確にされていること。

(5) 工程管理

進捗状況等の工程管理が明確にされていること。

(6) 調達管理

① あらかじめ下請負者が決まっている場合は、下請負者名及びその発注業務内容を含めて記載すること。ただし、金50万円未満の下請負業務、印刷費、会場借料、その他これに類するものを除く。

② 業務の一部を協力会社へ外注する場合は、協力会社の技術能力を考慮して発注先を選定し、発注・契約に際しては、要求品質、業務内容、範囲及び期間を明記した調達文書を作成すること。

③ 業務の実施に当たり、知り得た情報に関する情報管理を的確に行うよう協力会社に指示すること。

④ 協力会社からの成果品が、要求品質に適合していることを確認すること。

15. 情報セキュリティの確保

受注者は、下記の点に留意して情報セキュリティを確保するものとする。

- (1) 受注者は、受注業務の開始時に、受注業務に係る情報セキュリティ対策とその実施方法及び管理体制について、発注者に書面で提出すること。
- (2) 受注者は、発注者から要機密情報を提供された場合には、当該情報の機密性の格付けに応じて適切に取り扱うための措置を講ずること。また、受注業務において受注者が作成する情報については、発注者からの指示に応じて適切に取り扱うこと。
- (3) 受注者は、原子力規制委員会情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が不十分と見なされるとき又は、受注者において受注業務に係る情報セキュリティ事故が発生したときは、必要に応じて発注者の行う情報セキュリティ対策に関する監査を受け入れること。
- (4) 受注者は、発注者から提供された要機密情報が業務終了等により不要になった場合には、確実に返却し又は廃棄すること。また、受注業務において受注者が作成した情報についても、発注者からの指示に応じて適切に廃棄すること。
- (5) 受注者は、受注業務の終了時に、本業務で実施した情報セキュリティ対策を書面で報告すること。

(参考)原子力規制委員会情報セキュリティポリシー <https://www.nsr.go.jp/data/000129977.pdf>

16. 提出図書

(1) 提出図書及び提出時期

発注者の承認を受けるため又は、報告するための図書、部数、時期は下表のとおり。

| No. | 提出図書 | 数量 (部/式) | 提出時期 等 |
|-----|--------------------------------|-------------|--|
| 1 | 実施体制図 | 1 | 契約締結後 10 日以内 |
| 2 | 品質計画書 | 1 | 契約締結後 10 日以内 |
| 3 | 実施計画書 | 1 | 契約締結後 10 日以内 |
| 4 | 講師略歴 | 1 | 講師選定後 速やかに |
| 5 | [確認用] ・研修教材 ・理解度テスト(解答付) | 1 | 研修日の 14 営業日前まで * 全期同じものを使用する場合は、1回の提出で良い。 |
| 6 | [完成版] ・研修教材 ・理解度テスト(解答付) | 1 | 研修日の 2 営業日前まで * 確認用と完成版が同じ場合、提出不要 * 全期同じものを使用する場合は、1回の提出で良い。 |
| 7 | 打合せ議事録 | 1 | 打合せの都度速やかに |
| 8 | 採点済み答案/整理票 | 1 | 研修後 14 日以内(各期ごと) * 契約期間を超える場合は、契約満了日まで |
| 9 | 完了届 | 1 | 契約満了日まで |
| 10 | 情報セキュリティ書類 | 1 | 契約締結後 速やかに |
| 11 | 情報セキュリティ対策 実施報告書 | 1 | 契約満了日まで |

注1) 提出物に変更が生じた際は、速やかに最新版を提出すること。

注2) 契約満了日までに、提出図書一式を CD-R 等に格納し、1部提出すること。(データ提出可能な図書のみ。)

(2) 提出場所

〒106-8450 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル20階
原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課

17. 納入物、納入期限及び納入場所

(1) 納入物

- ① 実施報告書（紙媒体）×各期1部
- ② 全期分の実施報告書を格納した CD-R 等電子媒体×1部

(2) 納入期限

- ① 実施報告書は、各期の研修終了後14日以内
※研修日程変更等により契約期間を超える場合は、契約満了日まで
- ② CD-R 等電子媒体は、契約満了日まで

(3) 納入場所

〒106-8450 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル20階
原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課

18. 検収条件

本仕様書に記載の内容を満たしていることが確認されたことをもって、検収とする。

19. その他

- (1) 受注者は、本仕様書に疑義が生じたとき、本仕様書により難しい事項が生じたとき、あるいは本仕様書に記載のない細部については、発注者と速やかに協議し、その指示に従うこと。
- (2) 受注者は、本業務において納入する全ての成果物について、瑕疵担保責任を負うものとする。瑕疵担保責任期間は、検収後1年間とする。
- (3) 受注者は、発注者と日本語で円滑なコミュニケーションが可能で、かつ業務において良好な信頼関係が保てること。
- (4) 業務上不明な事項が生じた場合は、発注者に確認の上、その指示に従うこと。
- (5) 常に発注者との緊密な連絡・協力関係の保持及び十分な支援を提供すること。
- (6) 本調達において納品される成果物の著作権は、検収合格が完了した時点で、原子力規制庁に移転する。受注者は、成果物の作成に当たり、第三者の工業所有権又はノウハウを実施・使用にすることは、その実施・使用に対する一切の責任を負う。
- (7) 成果物納入後に受注者の責めによる不備が発見された場合には、受注者は無償で速やかに必要な事項を講ずること。

(別表)

| 項目 | 内容 |
|---------------------|---|
| 1. 放射線・放射能の基礎 | (1)放射線の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電離放射線と非電離放射線 ・ 電離放射線の種類(粒子線と電磁波、粒子線の種類(荷電粒子線と非荷電粒子線)) (2)放射線の発生原理 <ul style="list-style-type: none"> ・ α線、β線、γ線の発生原理(放射性崩壊、崩壊系列、減衰・半減期、崩壊定数) ・ X線の発生原理 ・ 中性子線の発生原理(核分裂、中性子源、加速器) (3)放射線と物質との相互作用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 電離・励起作用、蛍光作用、写真作用、原子核反応(散乱、吸収、核分裂) (4)放射線の透過力と人体への影響範囲 <ul style="list-style-type: none"> ・ α線、β線、γ(X)線、中性子線の物質に対する透過力 ・ α線、β線、γ(X)線の空気中で飛ぶ距離 ・ α線、β線、γ(X)線の人体への影響範囲(体外から、体内から) |
| 2. 放射線被ばくの基礎 | (1)身の回りの放射線と被ばく <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然放射線(宇宙、大地、空気中、飲食物)による被ばく ・ その他日常生活で受ける被ばく(医療、航空機等) ・ 特殊な環境での被ばく(インドケララ地方、宇宙ステーション等) (2)被ばくの形態 <ul style="list-style-type: none"> ・ 外部被ばく(局部被ばくを含む) ・ 内部被ばく(被ばく経路、物理的半減期、生物学的半減期、実効半減期を含む) (3)被ばくの種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆被ばく、医療被ばく、職業被ばく (4)被ばく状況の種類 <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画被ばく、緊急被ばく、現存被ばく |
| 3. 放射線の人体への影響 | (1)放射線の人体影響の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> ・ DNA損傷・修復、細胞周期、線量率効果、LET、RBE、放射線感受性 (2)確定的影響 <ul style="list-style-type: none"> ・ しきい値、急性被ばく、皮膚被ばく、水晶体被ばく、胎児への影響 (3)確率的影響 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疫学的データ、がん及び遺伝的影響とリスク |
| 4. 線量概念と放射線に関する量と単位 | (1)物理量 <ul style="list-style-type: none"> ・ フルエンス、カーマ、吸収線量、照射線量 (2)防護基本量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線加重係数、等価線量、組織加重係数、実効線量 (3)計測実用量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 拡張と整列、周辺線量当量、個人線量当量、基本量との関係 (4)内部被ばくの線量 <ul style="list-style-type: none"> ・ 預託線量 ・ 記録法 |
| 5. 放射線防護に係る法令 | (1)ICRP 勧告と防護基準の変遷 (2)我が国の放射線規制の概要 (3)放射線障害防止法(今後の変更点を含む) (4)電離放射線障害防止規則 (5)人事院規則 10-5(職員の放射線障害の防止) (6)原子力規制委員会放射線障害防止管理規程 |

| | |
|---------------------|--|
| 6. 放射線防護 | <p>(1)放射線防護の基本原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行為の正当化、防護の最適化、個人の線量限度 <p>(2)外部被ばく防護三原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対象線種と適用条件 ・ 距離、遮へい、時間 <p>(3)線種別の距離や遮へいによる減衰計算例</p> <p>(4)内部被ばくの防護措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 留意すべき放射性物質と防護方法 ・ 安定ヨウ素剤の利用方法と留意事項 |
| 7. 放射線管理 | <p>(1)放射性物質の安全取扱(密封、非密封)</p> <p>(2)放射線モニタリングの基本知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般環境のモニタリング、作業環境のモニタリング、個人モニタリング <p>(3)施設の放射線管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放出放射性物質(気体、液体) ・ 表面汚染 <p>(4)放射線モニタリング情報(Web ポータルサイト)</p> |
| 8. 福島第一事故に係る放射線防護活動 | <p>(1)福島第一原子力発電所事故時に放出された放射性物質と放射線防護活動</p> <p>(2)住民被ばくの状況</p> <p>(3)事故収束、廃炉作業に係る被ばくと防護</p> |
| 9. 放射線測定器の種類と概要 | <p>(1)測定に利用される相互作用等の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電離作用((気体、固体)、発光作用、化学変化) <p>(2)気体検出器の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電離箱、比例計数管、GM 計数管 <p>(3)固体検出器の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 半導体検出器 <p>(4)シンチレーション検出器の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 固体、液体、プラスチック <p>(5)受動型検出器の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検出素子(ガラス、OSL、TL)、DIS 線量計、化学線量計、フィルム <p>※ 測定器個別の説明だけでなく、測定器間の比較(対象放射線、線量率範囲、長所/短所、主な用途等)も行う。</p> |
| 10. 用途別放射線測定器の例 | <p>(1)放射線管理用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サーベイメータ(空間線量率、表面汚染)、(種類、特性と用途、測定範囲) ・ エリアモニタ(種類と役割) ・ 個人線量計(パッシブ型、アクティブ型、警報線量計) <p>(2)放射能測定用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Ge、NaI 検出器とγ線スペクトロメータ ・ 液体シンチレーション測定器 ・ 2πガスフロー検出器 ・ α・β線用スペクトロメータ(Si 等) ・ 加速器や質量分析装置(ICP-MS 等)の利用 <p>(3)その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放射能モニタ(ダスト、ガス、ヨウ素) ・ 食品モニタ ・ ホールボディカウンター ・ 表面汚染モニタ(体表面汚染、搬出物品、ランドリーモニタ) ・ 環境放射線モニタ(モニタリングポスト、モニタリングステーション) ・ モニタリングカー ・ 水モニタ ・ ガンマ線カメラ |

| | |
|----------------------------------|--|
| 11. 放射線計測の信頼性 | <p>(1)放射線計測の信頼性確保の要素</p> <p>(2)線量(率)測定器校正とトレーサビリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校正場の要件 ・校正方法(置換法、線源法) ・JIS Z4511 の概要 <p>(3)放射線測定に係る規格と品質保証プログラム</p> <p>(4)表面汚染計校正(機器効率と線源効率)</p> <p>(5)放射能測定器の校正方法</p> |
| 12. 放射線計測データの統計処理 | <p>(1)放射線計測における統計、誤差、不確かさ</p> <p>(2)計数率測定に係る標準偏差</p> <p>(3)バックグラウンド計数と検出下限</p> <p>(4)検出効率</p> <p>(5)計測時の被ばく低減(適切な計測時間、回数等)</p> |
| 13. スペクトロメータによる放射能測定時留意事項 | <p>(1)スペクトロメータの校正</p> <p>(2)NaI、Ge 検出器によるスペクトル測定時の留意事項(実習ガイダンス)</p> |
| (実習 1) 空間線量測定実習 | <p>(1)サーベイメータを用いた空間線量測定の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作方法、時定数の設定、基本的測定方法 <p>(2)距離、遮へいによる減衰</p> <p>(3)方向依存性の確認実習(NaI、GM 管)</p> <p>(4)電子式個人線量計の実演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校正法、ファントム装着法等 |
| (実習 2) 表面汚染測定実習 | <p>(1)表面汚染測定用サーベイメータの使用法</p> <p>(2)汚染検査測定と表面密度の計算</p> <p>(3)空气中放射性物質の測定(放射能の測定と減衰確認)</p> |
| (実習 3) NaI 検出器によるスペクトル測定実習 | <p>(1)NaI 検出器によるスペクトル測定実習</p> |
| (実習 4) Ge 検出器による in-situ 測定実習 | <p>(1)Ge 検出器による in-situ 測定実習(データ処理、評価を含む)</p> |
| (実習 5) 放射線防護具の取り扱い実習 | <p>(1)汚染防護具(タイベックスーツ等)の装着法</p> <p>(2)防護マスク及び個人線量計の取扱と装着法</p> <p>(3)空気呼吸器の装着方法</p> |
| 理解度テスト | <ul style="list-style-type: none"> ・理解度テスト ・解答及び解説 ・質疑応答 |

入札適合条件

「平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修」を実施するにあたり、以下の条件を満たすことを証明するための資料を提出すること。

- (1) 平成31・32・33年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。
- (2) 原子力規制委員会情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が確保されていること。
- (3) 自ら又は協力機関等が本業務を実施する能力を有すること。
実績でその能力を示す場合には、放射線の測定及び防護、又は類似する業務を2例以上示すこと。（下記a～cの事項を記載した資料を添付すること。）
 - a. 研修名
 - b. 業務内容
 - c. 依頼主（可能であれば）
- (4) 以下の要件を満たす実施体制を示すこと。
 - ① 業務遂行に係る業務管理及び技術管理の体制を示すこと。ただし、「業務管理責任者」と「技術管理責任者」の兼務を行ってはならない。
 - ② 品質管理の体制を示すこと。その中で、品質保証部門と本業務の実施部門とが独立していることを明確に示すこと。

本件の入札に参加しようとするものは、上記の（1）～（4）の条件を満たすことを証明するために、様式1及び様式2の適合証明書等を原子力安全人材育成センターに提出し、同センター総合研修課が行う適合審査に合格する必要がある。

なお、適合証明書等（添付資料を含む。）は、正1部、及び副1部を期限①までに提出すること。また、適合証明書に係る質問等は、期限②までに下記担当者に問い合わせること。

①適合証明書の提出期限：平成31年5月21日（火）12時まで

②質問等期限：平成31年5月17日（金）12時までに電子メールにて問合せ

提出先： 〒106-8450

東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル20階
原子力規制委員会 原子力安全人材育成センター 総合研修課

担 当： 青木 容子： yoko_aoki@nsr.go.jp

浅生 久美子： kumiko_aso01@nsr.go.jp

TEL： 03-6277-6924

(様式1)

平成 年 月 日

支出負担行為担当官

原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 殿

所在地

商号又は名称

㊦

代表者氏名

㊦

「平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修」の入札に関し、応札者の条件を満たしていることを証明するため、適合証明書を提出します。

なお、落札した場合は、仕様書に従い、万全を期して業務を行いますが、万一不測の事態が生じた場合は、原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官の指示の下、全社を挙げて直ちに対応します。

適合証明書

件名：平成31年度 放射線測定及び放射線防護研修

| 条 件 | 回 答 (○/×) | 資料 No. |
|--|--------------|-----------|
| <p>(1) 平成31・32・33年度環境省競争参加資格（全省庁統一資格）「役務の提供等」の「A」、「B」又は「C」の等級に格付けされている者であること。</p> <p>格付け_____（格付けを記入し証明書コピーを提出すること。）</p> | | |
| <p>(2) 原子力規制委員会情報セキュリティポリシーに準拠した情報セキュリティ対策の履行が確保されていること。</p> | | |
| <p>(3) 自ら又は協力機関等が本業務を実施する能力を有すること。実績でその能力を示す場合には、放射線の測定及び防護、又は類似する業務を2例以上示すこと。（下記 a～c の事項を記載した資料を添付すること。）</p> <p>a. 研修名</p> <p>b. 業務内容</p> <p>c. 依頼主（可能であれば）</p> | | |
| <p>(4) 以下の要件を満たす実施体制を示すこと。</p> <p>① 業務遂行に係る業務管理及び技術管理の体制を示すこと。ただし、「業務管理責任者」と「技術管理責任者」の兼務を行ってはならない。</p> <p>② 品質管理の体制を示すこと。その中で、品質保証部門と本業務の実施部門とが独立していることを明確に示すこと。</p> | | |

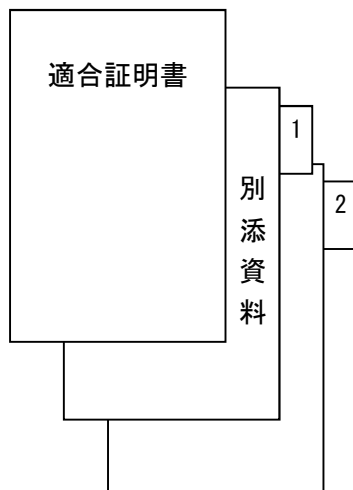
【適合証明書に対する照会先】

所在地 :
 商号又は名称及び所属 :
 担当者名 :
 電話番号 :
 FAX 番号 :
 E-Mail :

記載上の注意

1. 適合証明書の様式で要求している事項については、指定された箇所に記載すること。なお、回答欄には、条件を全て満たす場合は「○」、満たさない場合は「×」を記載すること。
2. 内容を確認できる書類等を要求している場合は必ず添付した上で提出すること。なお、応札者が必要であると判断する場合には他の資料を添付することができる。
3. 適合証明書の説明として別添資料を用いる場合は、当該項目の「資料 No.」欄に資料番号を記載すること。

その場合、提出する別添資料の該当部分をマーカー、丸囲み等により分かりやすくすること。
4. 資料は、日本語（日本語以外の資料については日本語訳を添付）、A 4 判（縦置き、横書き）で提出するものとし、様式はここに定めるもの以外については任意とする。
5. 適合証明書は、下図のようにまとめ提出すること。



- ①項目ごとにインデックス等を付ける。
- ②紙ファイル、クリップ等により、順序よくまとめ綴じる。

(案)

契 約 書

支出負担行為担当官原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 名（以下「甲」という。）と、
（以下「乙」という。）とは、「平成31年度放射線測定及び放射線防護研修」について、次の条項（特記事項を含む。）により契約を締結する。

(契約の目的)

第1条 乙は、別添の仕様書に基づき業務を行うものとする。

(契約金額)

第2条 金 円（うち消費税額及び地方消費税額 円）とする。

2 前項の消費税額及び地方消費税額は、消費税法第28条第1項及び第29条並びに地方税法第72条の82及び第72条の83の規定に基づき算出した額である。

(契約期間)

第3条 契約締結日から 年 月 日までとする。

(契約保証金)

第4条 甲は、この契約の保証金を免除するものとする。

(一括委任又は一括下請負の禁止等)

第5条 乙は、役務等の全部若しくは大部分を一括して第三者に委任し、又は請負わせてはならない。ただし、甲の承諾を得た場合は、この限りでない。

2 乙は、前項ただし書きに基づき第三者に委任し、又は請負わせる場合には、委任又は請負させた業務に伴う当該第三者（以下「下請負人」という。）の行為について、甲に対しすべての責任を負うものとする。本項に基づく乙の責任は本契約終了後も有効に存続する。

3 乙は、第1項ただし書きに基づき第三者に委任し、又は請負わせる場合には、乙がこの契約を遵守するために必要な事項について、下請負人と書面で約定しなければならない。また、乙は、甲から当該書面の写しの提出を求められたときは、遅滞なく、これを甲に提出しなければならない。

(監督)

第6条 乙は、甲が定める監督職員の指示に従うとともに、その職務に協力しなければならない

い。

2 甲は、いつでも乙に対し契約上の義務の履行に関し報告を求めることができ、また必要がある場合には、乙の事業所において契約上の義務の履行状況を調査することができる。

(完了の通知)

第7条 乙は、役務全部が完了したときは、その旨を直ちに甲に通知しなければならない。

(検査の時期)

第8条 甲は、前条の通知を受けた日から10日以内にその役務行為の成果について検査をし、合格したうえで引渡し又は給付を受けるものとする。

(天災その他不可抗力による損害)

第9条 前条の引渡し又は給付前に、天災その他不可抗力により損害が生じたときは、乙の負担とする。

(対価の支払)

第10条 甲は、業務完了後、乙から適法な支払請求書を受理した日から30日（以下「約定期間」という。）以内に対価を支払わなければならない。

(遅延利息)

第11条 甲が前条の約定期間内に対価を支払わない場合には、遅延利息として約定期間満了の日の翌日から支払をする日までの日数に応じ、当該未払金額に対し財務大臣が決定する率を乗じて計算した金額を支払うものとする。

(違約金)

第12条 乙が次の各号のいずれかに該当するときは、甲は、違約金として次の各号に定める額を徴収することができる。

- (1) 乙が天災その他不可抗力の原因によらないで、完了期限までに本契約の契約仕様書に基づき納品される納入物（以下「納入物」という。）の引渡しを終わらないとき 延引日数1日につき契約金額の1,000分の1に相当する額
- (2) 乙が天災その他不可抗力の原因によらないで、完了期限までに納入物の引渡しが終わる見込みがないと甲が認めたとき 契約金額の100分の10に相当する額
- (3) 乙が正当な事由なく解約を申出たとき 契約金額の100分の10に相当する額
- (4) 本契約の履行に関し、乙又はその使用人等に不正の行為があったとき 契約金額の100分の10に相当する額
- (5) 前各号に定めるもののほか、乙が本契約の規定に違反したとき 契約金額の1

00分の10に相当する額

- 2 乙が前項の違約金を甲の指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払いをする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(契約の解除等)

第13条 甲は、乙が前条第1項各号のいずれかに該当するときは、催告を要さず本契約を直ちに解除することができる。この場合、甲は乙に対して契約金額その他これまでに履行された請負業務の対価及び費用を支払う義務を負わない。

- 2 甲は、前項の規定により本契約を解除した場合において、契約金額の全部又は一部を乙に支払っているときは、その全部又は一部を期限を定めて返還させることができる。

(かし担保責任)

第14条 甲は、役務行為が完了した後でもかしがあることを発見したときは、乙に対して相当の期間を定めて、そのかしの補修をさせることができる。

- 2 前項によってかしの補修をさせることができる期間は、引渡し又は給付を受けてから1カ年とする。
- 3 乙が第1項の期日までにかしの補修をしないときは、甲は、乙の負担において第三者にかしの補修をさせることができる。

(損害賠償)

第15条 甲は、かしの補修、違約金の徴収、契約の解除をしてもなお損害賠償の請求をすることができる。ただし、損害賠償を請求することができる期間は、引渡し又は給付を受けてから1カ年とする。

(秘密の保持)

第16条 乙は、本契約による作業の一切について秘密の保持に留意し、漏えい防止の責任を負うものとする。

- 2 乙は、本契約終了後においても前項の責任を負うものとする。

(権利義務の譲渡等)

第17条 乙は、本契約によって生じる権利の全部又は一部を甲の承諾を得ずに、第三者に譲渡し、又は承継させてはならない。ただし、信用保証協会、資産の流動化に関する法律（平成10年法律第105号）第2条第3項に規定する特定目的会社又は中小企業信用保険法施行令（昭和25年政令第350号）第1条の3に規定する金融機関に対して債権を譲渡する場合にあっては、この限りでない。

- 2 乙が本契約により行うこととされたすべての給付を完了する前に、前項ただし書に基づいて債権の譲渡を行い、甲に対して民法（明治29年法律第89号）第467条又は動産

及び債権の譲渡の対抗要件に関する民法の特例等に関する法律（平成10年法律第104号。以下「債権譲渡特例法」という。）第4条第2項に規定する通知又は承諾の依頼を行った場合、甲は次の各号に掲げる事項を主張する権利を保留し又は次の各号に掲げる異議を留めるものとする。また、乙から債権を譲り受けた者（以下「譲受人」という。）が甲に対して債権譲渡特例法第4条第2項に規定する通知若しくは民法第467条又は債権譲渡特例法第4条第2項に規定する承諾の依頼を行った場合についても同様とする。

- (1) 甲は、承諾の時に於いて本契約上乙に対して有する一切の抗弁について保留すること。
 - (2) 譲受人は、譲渡対象債権を前項ただし書に掲げる者以外への譲渡又はこれへの質権の設定その他債権の帰属並びに行使を害すべきことを行わないこと。
 - (3) 甲は、乙による債権譲渡後も、乙との協議のみにより、納地の変更、契約金額の変更その他契約内容の変更を行うことがあり、この場合、譲受人は異議を申し立てないものとし、当該契約の変更により、譲渡対象債権の内容に影響が及ぶ場合の対応については、もっぱら乙と譲受人の間の協議により決定されなければならないこと。
- 3 第1項ただし書に基づいて乙が第三者に債権の譲渡を行った場合においては、甲が行う弁済の効力は、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号）第42条の2の規定に基づき、甲が同令第1条第3号に規定するセンター支出官に対して支出の決定の通知を行ったときに生ずるものとする。

（著作権等の帰属・使用）

- 第18条 乙は、納入物に係る著作権（著作権法（昭和45年法律第48号）第27条及び第28条の権利を含む。乙、乙以外の事業参加者及び第三者の権利の対象となっているものを除く。）を甲に無償で引き渡すものとし、その引渡しは、甲が乙から納入物の引渡しを受けたときに行われたものとみなす。乙は、甲が求める場合には、譲渡証の作成等、譲渡を証する書面の作成に協力しなければならない。
- 2 乙は、納入物に関して著作者人格権を行使しないことに同意する。また、乙は、当該著作物の著作者が乙以外の者であるときは、当該著作者が著作者人格権を行使しないように必要な措置をとるものとする。
 - 3 乙は、特許権その他第三者の権利の対象になっているものを使用するときは、その使用に関する一切の責任を負わなければならない。

（個人情報の取扱い）

- 第19条 乙は、甲から預託を受けた個人情報（生存する個人に関する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述又は個人別に付された番号、記号その他の符号により当該個人を識別できるもの（当該情報のみでは識別できないが、他の情報と容易に照合することができ、それにより当該個人を識別できるものを含む。）をいう。以下同じ。）については、善良なる管理者の注意をもって取り扱う義務を負うものとする。
- 2 乙は、次の各号に掲げる行為をしてはならない。ただし、事前に甲の承認を得た場合は、この限りでない。
 - (1) 甲から預託を受けた個人情報を第三者（第5条第2項に定める下請負人を含む。）に

預託若しくは提供し、又はその内容を知らせること。

- (2) 甲から預託を受けた個人情報について、この契約の目的の範囲を超えて使用し、複製し、又は改変すること。
- 3 乙は、甲から預託を受けた個人情報の漏えい、滅失、き損の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。
- 4 甲は、必要があると認めるときは、所属の職員に、乙の事務所、事業場等において、甲が預託した個人情報の管理が適切に行われているか等について調査をさせ、乙に対し必要な指示をさせることができる。
- 5 乙は、甲から預託を受けた個人情報を、本契約終了後、又は解除後速やかに甲に返還するものとする。ただし、甲が別に指示したときは、その指示によるものとする。
- 6 乙は、甲から預託を受けた個人情報について漏えい、滅失、き損、その他本条に係る違反等が発生したときは、甲に速やかに報告し、その指示に従わなければならない。
- 7 第1項及び第2項の規定については、本契約終了後、又は解除した後であっても、なおその効力を有するものとする。

(資料等の管理)

第20条 乙は、甲が貸出した資料等については、十分な注意を払い、紛失又は滅失しないよう万全の措置をとらなければならない。

(契約の公表)

第21条 乙は、本契約の名称、契約金額並びに乙の商号又は名称及び住所等が公表されることに同意するものとする。

(紛争の解決方法)

- 第22条 本契約の目的の一部、納期その他一切の事項については、甲と乙との協議により、何時でも変更することができるものとする。
- 2 前項のほか、本契約条項について疑義があるとき又は本契約条項に定めてない事項については、甲と乙との協議により決定するものとする。

附 則

元号が改められたときには、本契約書、仕様書その他本契約に係る文書に記載した日付（元号が改められた日以後のものに限る。）を、新しい元号による日付に読み替えるものとする。

特記事項

【特記事項 1】

(談合等の不正行為による契約の解除)

第1条 甲は、次の各号のいずれかに該当したときは、契約を解除することができる。

(1) 本契約に関し、乙が私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号。以下「独占禁止法」という。）第3条又は第8条第1号の規定に違反する行為を行ったことにより、次のイからハまでのいずれかに該当することとなったとき

イ 独占禁止法第49条に規定する排除措置命令が確定したとき

ロ 独占禁止法第62条第1項に規定する課徴金納付命令が確定したとき

ハ 独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の課徴金納付命令を命じない旨の通知があったとき

(2) 本契約に関し、乙の独占禁止法第89条第1項又は第95条第1項第1号に規定する刑が確定したとき

(3) 本契約に関し、乙（法人の場合にあっては、その役員又は使用人を含む。）の刑法（明治40年法律第45号）第96条の6又は第198条に規定する刑が確定したとき

(談合等の不正行為に係る通知文書の写しの提出)

第2条 乙は、前条第1号イからハまでのいずれかに該当することとなったときは、速やかに、次の各号の文書のいずれかの写しを甲に提出しなければならない。

(1) 独占禁止法第61条第1項の排除措置命令書

(2) 独占禁止法第62条第1項の課徴金納付命令書

(3) 独占禁止法第7条の2第18項又は第21項の課徴金納付命令を命じない旨の通知文書

(談合等の不正行為による損害の賠償)

第3条 乙が、本契約に関し、第1条の各号のいずれかに該当したときは、甲が本契約を解除するか否かにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の100分の10に相当する金額（その金額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。

2 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。

3 第1項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者

は、連帯して支払わなければならない。

- 4 第1項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する損害賠償金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 5 乙が、第1項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

【特記事項2】

(暴力団関与の属性要件に基づく契約解除)

第4条 甲は、乙が次の各号の一に該当すると認められるときは、何らの催告を要せず、本契約を解除することができる。

- (1) 法人等（個人、法人又は団体をいう。）が、暴力団（暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団をいう。以下同じ。）であるとき又は法人等の役員等（個人である場合はその者、法人である場合は役員又は支店若しくは営業所（常時契約を締結する事務所をいう。）の代表者、団体である場合は代表者、理事等、その他経営に実質的に関与している者をいう。以下同じ。）が、暴力団員（同法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。以下同じ。）であるとき
- (2) 役員等が、自己、自社若しくは第三者の不正の利益を図る目的又は第三者に損害を加える目的をもって、暴力団又は暴力団員を利用するなどしているとき
- (3) 役員等が、暴力団又は暴力団員に対して、資金等を供給し、又は便宜を供与するなど直接的あるいは積極的に暴力団の維持、運営に協力し、若しくは関与しているとき
- (4) 役員等が、暴力団又は暴力団員であることを知りながらこれと社会的に非難されるべき関係を有しているとき

(下請負契約等に関する契約解除)

第5条 乙は、本契約に関する下請負人等（下請負人（下請が数次にわたるときは、すべての下請負人を含む。）及び再委任者（再委任以降のすべての受任者を含む。）並びに自己、下請負人又は再委任者が当該契約に関連して第三者と何らかの個別契約を締結する場合の当該第三者をいう。以下同じ。）が解除対象者（前条に規定する要件に該当する者をいう。以下同じ。）であることが判明したときは、直ちに当該下請負人等との契約を解除し、又は下請負人等に対し解除対象者との契約を解除させるようにしなければならない。

- 2 甲は、乙が下請負人等が解除対象者であることを知りながら契約し、若しくは下請負人等の契約を承認したとき、又は正当な理由がないのに前項の規定に反して当該下請負人等との契約を解除せず、若しくは下請負人等に対し契約を解除させるための措置を講じないときは、本契約を解除することができる。

(損害賠償)

- 第6条 甲は、第4条又は前条第2項の規定により本契約を解除した場合は、これにより乙に生じた損害について、何ら賠償ないし補償することは要しない。
- 2 乙は、甲が第4条又は前条第2項の規定により本契約を解除した場合において、甲に損害が生じたときは、その損害を賠償するものとする。
- 3 乙が、本契約に関し、前項の規定に該当したときは、甲が本契約を解除するか否かにかかわらず、かつ、甲が損害の発生及び損害額を立証することを要することなく、乙は、契約金額（本契約締結後、契約金額の変更があった場合には、変更後の契約金額）の100分の10に相当する金額（その金額に100円未満の端数があるときは、その端数を切り捨てた金額）を違約金として甲の指定する期間内に支払わなければならない。
- 4 前項の規定は、本契約による履行が完了した後も適用するものとする。
- 5 第2項に規定する場合において、乙が事業者団体であり、既に解散しているときは、甲は、乙の代表者であった者又は構成員であった者に違約金の支払を請求することができる。この場合において、乙の代表者であった者及び構成員であった者は、連帯して支払わなければならない。
- 6 第3項の規定は、甲に生じた実際の損害額が同項に規定する損害賠償金の金額を超える場合において、甲がその超える分について乙に対し損害賠償金を請求することを妨げるものではない。
- 7 乙が、第3項の違約金及び前項の損害賠償金を甲が指定する期間内に支払わないときは、乙は、当該期間を経過した日から支払をする日までの日数に応じ、年5パーセントの割合で計算した金額の遅延利息を甲に支払わなければならない。

(不当介入に関する通報・報告)

- 第7条 乙は、本契約に関して、自ら又は下請負人等が、暴力団、暴力団員、暴力団関係者等の反社会的勢力から不当要求又は業務妨害等の不当介入（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、これを拒否し、又は下請負人等をして、これを拒否させるとともに、速やかに不当介入の事実を甲に報告するとともに警察への通報及び捜査上必要な協力を行うものとする。

本契約の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙記名押印の上各1通を保有する。

年 月 日

甲 東京都港区六本木一丁目9番9号
支出負担行為担当官
原子力規制委員会原子力規制庁長官官房参事官 名

乙

※ 以下、仕様書を添付